

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：漢文 基礎

学籍番号

氏名

漢文

◎漢文の形態

◇白文 漢字だけで書かれた原文 (返り点や送り仮名が無く汚れていない)

百聞不如一見

◇訓読文 白文の漢字の右下に送り仮名、左下に返り点を施し、日本語読みができるようにした文

百聞不如一見 (カタカナが送り仮名 ひらがなは読み仮名)

◇書き下し文 訓読文を漢字仮名交じりで書き改めた文

百聞は一見に如かず

※書き下し文は日本語に直した文。付属語にあたる漢字は平仮名になおす

◎訓読のきまり

漢文(白文)を訓読するために付けられた記号【返り点】の規則

▽レ点 下の文字から一つ上(すぐ上)の文字に戻る

▽一二点 「二」のついた文字が読めたら「二」へ返る

※上下点(甲乙点)も一二点と同様の規則

※返り点は、言葉のとおり「前へと返る(もどる)」のです。

先へ飛ぶことはありません。

※一二三と「三」までである場合(上中下、甲乙丙)

「二」を読めたら「二」に返り、次に「三」に返って読む

返り点は「レ」と「二」の規則だけです。「一レ」のように重ねて使われることはありませんが、難しくありません。

※とにかく上から順に読んでいき、返り点があったら気を付けましょう。

メモ

読み順▽①②③④⑤⑥⑦

【例】楚人有鬻盾与矛者。

書き下し文▽楚人に盾と矛とを鬻ぐ者有り。

練習

●次の□に読みの順番を示す数字を書きなさい。

Grid of boxes for reading order practice with numbers 1-8 and arrows indicating reading direction.

●次の訓読文を書き下し文にして書きなさい。

① 挙頭望山月

② 己所不欲、勿施於人。

③ 有朋自远方来、不亦乐乎。

置き字について

置き字とは漢文訓読の際、読まない文字のことです。また書き下し文にした際も書きませ

【主な置き字】

於而乎于 矣兮焉

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：漢文基礎 その2

漢詩

学籍番号

氏名

漢詩について

◎漢詩の種類

絶句 (四句「四行」の詩)

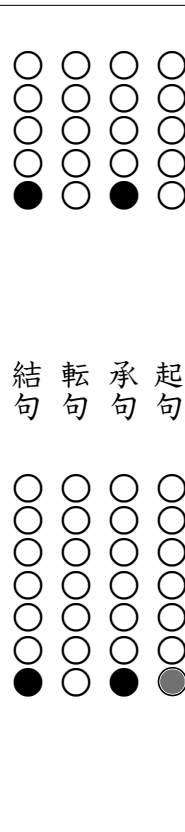
五言絶句

(一句が五言「五字」のもの)

七言絶句

(一句が七言「七字」のもの)

●は押韻する箇所



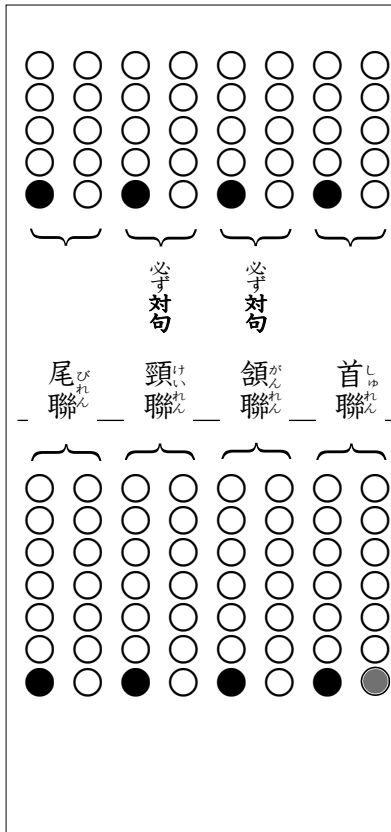
律詩 (八句「八行」の詩) || 四聯からなる詩

五言律詩

(一句が五言「五字」のもの)

七言律詩

(一句が七言「七字」のもの)



※規則としては、形式・押韻・対句

押韻とは

母音が同じ

同韻 (同じ響きをもつ語) の漢字を句末に用いる。

対句とは

二つの句において、相対する語句を用いて対照的に表現する技法

春曉

孟浩然

書き下し文

春眠不覚曉
處處聞啼鳥
夜來風雨聲
花落知多少

△押韻

絶句

杜甫

書き下し文

江碧鳥逾白
山青花欲然
今春看又過
何日是歸年

△押韻

△色を表す語

△対句

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：漢文基礎 その2

漢詩 2

学籍番号

氏名

△対句
△押韻

渾	白	家	烽	恨	感	城	国	春望
すべテ			ほう	レ	シテハニ		破	
欲	頭	書	火	別	時	春	山	
ス			くわ	レ	ハニ	ニシテ	河	
不	搔	抵	連	鳥	花	草	在	
レ	カケバ	あタル	ナリ	ニモ	ニモ	木		
勝	更	万	三	驚	濺	深		
レ	ニ			カス	レ	シ		
簪	短	金	月	心	涙	在		
シムニ	ク	ニ	ニ	ヲ	ヲ	リ		

書き下し文

△押韻

唯	孤	煙	故	李
たダ		えん	人	白
見	帆	花	西	
ル	ノ	くわ	辞	
長	遠	三	黄	
カウノ	影	月	鶴	
江	碧	下	樓	
天	空	揚		
際	尽	州		
ニ	キ	シウニ		
流		一		
ルルラ				

黄鶴樓して孟浩然の
広陵に之くを送る

書き下し文

古典A

date: 年 月 日 自然学園高等学校 梁川キャンパス

学習内容：教科書P164 故事と寓話

まうぼ
孟母断機

学籍番号

氏名

孟母断機

部は置き字

孟子之少也、既学而帰。孟母方織。
問曰、「学何所至矣。」

孟子曰、「自若也。」

孟母以刀断其織。

孟子懼而問其故。

孟母曰、「子之廢学、若吾断斯織也。」

夫君子学以立名、問則広知。

是以居則安寧、動則遠害。

今而廢之、是不免於厮役、

而無以離於禍患也。

何以異於織績而食、中道廢而不為。

寧能衣其夫子、而長不之糧食哉。

女則廢其所食、男則墮於脩徳、

不為窃盜、則為虜役矣。」

孟子懼、旦夕勤学不息。

師事子思、遂成天下之名儒。

孟母
孟子之母。

孟子

戦国時代の思想家。孔子の思想を発展させ、亜聖と仰がれた。

自若

以前と変わらない様子。

織

織っている布。

居

仕官・公職を務める家にいる。

動

(仕官して) 活動する。

厮役

下働き。

禍患

わざわい。災難。

織績

布を織ったり、糸を紡いだりする。

夫子

夫や子ども。

虜役

「厮役」と同じ。

旦夕

朝夕。

子思

孔子の孫。

名儒

名だたる儒学者。

① a 「問ひて曰はく」とは、誰の動作か。

b その内容である「学何れの所にか至る。」とは、どのような意味か。

② ①に對し忘れた「自若たり。」とは、どのような意味か。

③ 「之」が指し示すものとは何か。

④ 「孟子懼れて」と⑤ 「孟子懼れ」同じ表記であるが、違いを探すとすればどのようなところか。

⑤

⑥ 子之廢学、若吾断斯織也。の書き下し文と訳を書きなさい。

【書き下し文】

【訳】